

いま!この一冊!

いっさつ



『ちいさな宇宙の扉のまえで』
統・糸子の体重計

作/いとみく

絵/佐藤まきこ

童心社

93/1



細川糸子。がさつだが底抜けに明るく、食べることがなによりも好き。そのまっすぐさが、知らず知らずにまわりに影響を与えていく。

日野恵。糸子が入院している間に転校してきた。父親の仕事の都合で、転校を繰り返しているせいか、本当の友だちが出来ないと悩んでいる。

町田良子。才色兼備でクール。他人にも自分にもきびしいため、時にその言葉が相手を傷つけてしまう。

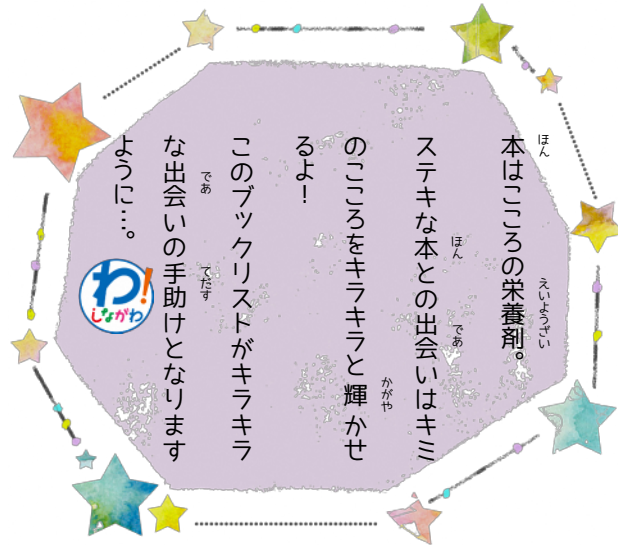
坂巻まみ。町田良子に憧れ、一番の友だちになりたいと願っている。いつも町田良子の真似をしているため、自分自身を見失いがち。

滝島怪介。母子家庭で、仕事が忙しい母とはすれちがいがばかり。本当はさみしいのに素直に言えない。

前作、『糸子の体重計』では5年生だった糸子たちは6年生に。

6年生の糸子たちの心はいつも忙しい。小さなことでいじけて、うらやんで、ケンカして…。でも案外タフで、案外ずうずうしい。

そして迎える卒業式。町田良子の読む答辞は、きっとあなたの背中を押してくれるはず。この春卒業を迎える6年生に、ぜひ読んでもらいたい一冊!



としょかん 図書館おすすめブックリスト



キラ
キミのところに☆めきを

しょうがくせい
小学生



『バスが来ましたよ』

作/由美村達々

絵/松本春野

アリス館

E/1



病気で目が見えなくなってしまったわたし。それでも仕事を続けると決めました。2年間、バスで職場へいく練習をし、とうとう一人で通うことに。それは、毎日が緊張の連続でした。

そんなある朝、「おはようございます バスが来ましたよ」という可愛い声とともに、わたしの腰に小さな手がえられました。同じバス停でおりる小さな女の子の名前はさきちゃん。その日から、さきちゃんは毎日「バスが来ましたよ」と声をかけてくれました。

そして月日は流れ、さきちゃんの代わりに妹が、そしてそのお友達も、わたしの通勤を手伝ってくれました…。

小さな手のぬくもりからはじまった優しさのバトン、あなたは誰にわたしますか?ほんとうにあった心あたたまるおはなしです。

ねんはるごう
2023年春号

へんしゅう ばっこう ぐたんだ としょかん
編集・発行：五反田図書館

1・2ねんせい〜

『ヘビくんブランコくん』 アリス館 93/オ



作/おおぎやなぎちか 絵/井上コトリ

ある春の日、冬眠から目覚めたヘビが歩いていると、ブランコにからまってしまいました。みんなからぎらおれることに慣れていたヘビでしたが、ブランコはちがいました。ヘビと友だちになりたいというのです。うれしくなったヘビは、からまった体をほどこうとしますが…。

ひねくれもののヘビとやさしいブランコが友だちになるまでの心あたまるおはなし。

3・4ねんせい〜

『カステラアパートのざらめさん』 Gakken 93/シ



作/島村本綿子 絵/コマツカ

拾った子ねこと一緒に住めるアパートを探して、「カステラアパート」に引っ越すことになった小学4年生のこのみ。そのアパートの大家さんは、なんだか動物たちの気持ちに手が取るようにわかるみたい。ちょっとびっくりしているとウワサの大家さんには、じつは誰も知らない秘密があって…。

5・6ねんせい〜

『やくやもしおの百人一首』 くもん出版 93/ク



作/久保田香里 絵/坂口友佳子

古い百人一首の箱から上の句の「采女をまつほの浦の夕なぎに」のふだが消えてしまいます。この下の句の「やくやもしおの身もこがれつつ」のふだが、「采女を…」のふだを見つけてほしいとお祈りしたら、なんと貴族の女の子に变身。百人一首が作られた時代にタイムスリップしてしまいます。はたして「采女を」と再会することができるのでしょうか？

『ちいさなトガリネズミ』 偕成社 93/ミ



作/みやこしあきこ

ちいさなトガリネズミはとっても働きもの。毎日おなじ時間に朝ごはんを食べ、おなじ時間に電車にのって仕事にいきます。特別なことはなにもないけれど、しずかにおだやかに暮らしています。

そんなある日、トガリネズミにちょっとしたいいことがあって…。

かわいいトガリネズミの毎日にほっこり！

『ロザリーのひみつ指令』 あかね書房 93/フ



作/レイモンド・フォナル 絵/イザベル・アルス 訳/杉田七重

戦争が続くなか、お父さんは戦地へいき、お母さんは工場で働いている。ロザリーはお母さんが働いている間、学校へあずけられることになった。教室のすみでおとなしく絵をかいているロザリーだったが、じつは秘密の任務があって…。

ロザリーの秘密の任務とはいったい！？ 真実をもとめた少女の悲しみの物語。

『長い長い夜』 小学館 93/ル



作/織/ル 訳/カ/パツファ

地球上最後の一人となったシロサイ。彼のそばで生まれたペンギンの子に、最後の力をふりしぼって伝えたかったことは…。

自分はどこから来て、どうやって生きぬかばならぬのか。つらくて眠れないような長い長い夜をすごしても、がんばって生きようという勇気があいてくる感動の物語。

『それで、いい！』 ポプラ社 93/イ



作/磯みゆき 絵/はたこうしろう

きつねは絵をかくのが大好き。でも、森の仲間からは、「ださい」とか「色はみでてる」と言われてしまいます。くやしくなったきつねは、「みんながおどろくようなすごい絵をかいてやる！」と意気込みます。しかし、かけばかくほど、すごい絵がどんな絵なのか分からなくなり、とうとう、絵をかくことが苦しくなってきた…。

キミはそのままですばらしい！と気づかされる一冊。

『森のクリーニング店 シラギクさん 友だちになった日』 93/フ



作/高森美由紀 絵/Jya Jya あかね書房

森のクリーニング店のシラギクばあさんは、どんなくすみもサッパリ取り去るスゴウで洗たく屋さん。ついでにその汚れやしみから、持ち主の悩みを見抜いて、事件も解決してしまう。

今日もまた悩みをかかえたお客さんたちが洗たくものを持ってやってきて…。

正義感あふれるシラギクばあさんが大活躍！

『ひみつの犬』 岩崎書店 93/イ



作/岩瀬成子

黒い服に黒いものが大好きな5年生の羽美。ペット禁止の同じマンションに引っ越してきた細田くんちの犬、トミオをどうしたらいいの相談にのるうちに、近所で起きた事件について調べていくことに…。

ついつい引き込まれるように読んでしまうお話です。ひみつにしていたトミオ、最後にはどんな結末が待っている？